

新春走ろう会の伴走ボランティアに参加して（2年生）

去年も視覚障がい者の方の伴走をさせていただきましたが、やはり声に出して何かを伝えるということは大切なことだと思います。

今年担当させていただいた方は、去年担当した方よりもさらに目が不自由で、一人では走ったりすることができない様子でした。でも僕たちが声を出して曲がる方向や道の状態などを伝えることによって、10 kmを完走されました。

今回の経験から、見える見えないにかかわらず、声に出して伝えることで、気づいてもらったり、見えているように感じてもらったりもできるし、さらには声のかけ方によって、元気づけたりできることを学びました。反対に、自分が気づいたり、思ったりしたことを声に出さないでいると、相手にも伝わらないし、その人をサポートすることにはならないということにも気づき、改めて声に出して伝えることの大切さを感じました。

今回の経験で学んだことは、サッカーでも生かせるし、自分が今後生きていく上で、とても大切なことだと思います。

（2年男子）

新春走ろう会で視覚障がい者の方の伴走をさせていただいたのは、今回で2回目だけど、人の目の代わりになって走るのは、やはり難しいと思いました。

日ごろは「あれ」や「こっち」という表現や、ジェスチャーで表しながら話すこともたくさんあるけれど、視覚障がい者の方と話すときは、どうすればいいのかいろいろと考えさせられることが多くて、とてもいい経験になりました。

僕が伴走させていただいた〇〇さんは、緊張している僕たちに明るく話しかけてくださり、その後もたくさんコミュニケーションをとることができました。完走した後に「ありがとうございました。」と言ってくださって、そのときに伴走することができてよかったと思いました。

この新春走ろう会で伴走させていただき、どこに何があるのか、どうすればいいのか、今は何km地点なのかなど、そういったことを伝えるところが、サッカーのコーチングにも似ていて、すごくいい経験をさせていただきました。

この経験を生かして、少しでも将来に役立てようと思いました。

（2年男子）

僕は〇〇さんという方の伴走を、1年生のA君とB君とで担当しました。

昨年と同じ方だったので「どのくらいのペースなのか」ということや、どんな人なのかということも分かっていたので、あまり不安はありませんでした。

マラソンでは、A君がロープを持って〇〇さんと腕を組んで伴走し、B君が前方を走って周りに声をかけて、〇〇さんが走りやすいようにしました。僕は後方で、その様子を見て、1年生の2人にアドバイスをしたり、〇〇さんに「ペースはどうですか？」などと聞いたりしました。

良かったと思うのは、まず〇〇さんが安全に走れたことです。1年生も〇〇さんに積極的に話しかけたり、周りにも声をかけていました。僕自身もどうしたらより安全に走れるか、目をつぶって走ったりして、いろいろと考えました。

目の不自由な方の目になるということの難しさを知ることができ、相手の立場や相手の状況を知ることの大切さをあらためて実感しました。

この経験は、サッカーでも大切だと、昨年も顧問の小川先生がおっしゃっていたことを思い出し、1年生にも伝えることができたと思います。

今日のこの貴重な経験によって、自分たちのチーム全体も、良い方向に進歩していきたいと強く思いました。

(2年男子)